

不妊を予防するために
日本を代表する産婦人科名医たちの想い

“親が正しい性の知識を教えるほど 子供は賢い人生を送ることができる”

【長崎】岡本ウーマンズクリニック—岡本 純英 院長

妊娠率の低下に関する
認識のなさに驚くばかり

「本来、赤ちゃんは家庭で作っていたのですが、今は病院で作るものになってきている」と、現代の妊娠のあり方について危惧するのは、長崎における不妊治療のバイオニアである岡本純英院長。一時、クリニックを訪れるのが40代以上の患者ばかりの時もあったが、今は不妊予防の意識が少しずつ広がりはじめ、受診年齢が若くなってきたという。生殖知識について分かりやすく説明するのも岡本院長が得意とするところだ。

「妊娠のタイミングをプロ野球球人生に例えて言うなら、18歳にドラフトでチャホヤされ、20代で大活躍。30代前半になると自己主張が入って来て、35歳から40歳は帽子振って引退ですよ。ボクシングだったら、リングにタオルを投げ込んで、セコンドが『よう頑張った、これ以上頑張ったら命に関わるよ』ってドクターストップをかけるレベルです。妊娠にはタイムリミットがあります。一般的な知識として、40代だと母体の体面でも出産のリスクがあることは知られていますが、妊娠率の低下に関する世の中の認識のなさには驚くばかりです」

さらに岡本院長は、生殖医療というジャンルが、他の科とは全く違うことを患者に説明しているという。

「医師の仕事は診断学が基本。これ

は内科や外科、救急医療のことであって、診断をつければ、治療メニューが自動的に出てきます。生殖医学では、きちんと結果を出すことが大切。お母さんになりたい、お父さんになりたい、自らの子孫を残したいという、生物としての本能と、その願いを現実させることに尽きます」

そのために、思春期での教育が重要であり、小学6年生の頃が最初のインプット時期にベストだと話す。

「体格や機能は、すでに大人なので、ここで減数分裂から上手に教えて、妊娠の仕組みをインプットするのがチャンスだと思います。しかし、今の学校の先生と助産師さんたちの性の教育の発表を見てみると、とりあえず、テーマが避妊法にあるわけです。教育のヒントがずれている。それに親からの教育も大切ですが、自分の子供を信用して、親が性について教えてあげられるほど、その子は賢い人生を送ることができるわけです」

そして、不妊予防の重要なポイントが、「本人自身が生殖医学の本質を見抜くこと」だと言う。

「毎月排卵する卵の内容は毎回遺伝子的に全部違って、全く別ものなんです。精子も3億匹全部違います。卵子は女性の両親から23ずつの染色体を受け継いでいるので、組み合わせの数は23乗で、約840万通りとなります。男性が作り出す精子も同じく約840万通り。つまり、産まれてくる

子供の染色体の組み合わせは70兆通り以上になります。地球の全人口が70億人ですから、地球1万個分の全人口をたった1組のカップルで作る可能性のある中から、1個を引き当てている神秘的な工程なわけです。これを交差、分配と言います。例えば、ホームランを出すには一定の打率、つまりチャレンジの期間が必要です。このように、患者さんに正しい妊娠の仕組みを知っていただきたいので、初診からこの話はしっかりしています。だから、院長の診察は長いついてよく言われてしまう。夕方には声が枯れていますから(笑)」

多くの女性は
お母さんになりたいもの

「小学生の女の子に『将来、何になりたい?』って聞くと、『お母さんになりたい』って答える子供もいますよね。つまり、多くの女性はお母さんになりたいわけですね。子供を作る適齢期は18歳から26歳ですが、現代女性の出産年齢は高齢の傾向にあります。お母さんのお腹の中にいる妊娠5カ月の女の子の胎児には、700万個の卵子が卵巣に備わっていますが、出生とともに卵の産生が終わり、加齢が卵の劣化を招きます。20代でクリニックに

来てくれたら、すぐに妊娠できたかもしれないのに、年齢がいくほど治療が難しくなる。『カボチャの馬車が追いかけて来ますよ』って、結局は追いつかなくなってしまうのです。みんな最初は宝物を持って生まれてきたのに、今の女性は卵を燃焼させ過ぎて、妊娠のチャンスを逃してしまっているように思います」

不妊治療や予防に情熱を注ぐ岡本院長だが、自身が子宝に恵まれることはなかった。今の技術があれば妊娠出産の喜びを味わうことができたかもしれない夫婦の不妊の苦しみを岡本院長自身が経験したからこそ、今の自



岡本 純英 院長
Sumihide Okamoto
長崎大学医学部卒業。1985年にオーストラリア・メルボルンにあるモナシュ大学クイーンビクトリアメディカルセンターの体外受精、胚移植医療センターへ国費で留学。帰国後、1988年に体外受精の誕生を手掛け、1991年に「岡本ウーマンズクリニック」を開業

“優しく、丁寧に、確実に”を治療方針に、適切な治療選択で多くの妊娠実績を持つ。不妊治療や妊娠に関する情報の発信を院内で積極的に行っているほか、患者との対話を大切に考え、じっくり向かい合う姿勢が、安心と喜びの声につながっている。



【2012年治療実績】
◆妊娠数 393件 ◆体外受精数 102件 ◆顕微授精数 346件 ◆凍結胚移植数 497件



1. 受精卵を観察できるカメラが搭載された最新の培養器。培養皿を出し入れしなくても、パソコン上で受精卵の変化を確認できる 2. 気さくで明るい岡本院長の説明は分かりやすく、患者からの信頼も厚い



座右の銘
信じなさい。騙された時は
見る目のなさを反省しなさい
「治療は相互信頼が大切。患者さんと卵の可能性を信じ。同じく産婦人科医だった親父からの人生訓です」



岡本ウーマンズクリニック
長崎県長崎市江戸町 7-1
☎ 095-820-2864 (初診の方のみ予約制)
🚶 市電車「西浜町駅」より徒歩2分 🌐 www.okamotoclinic.gr.jp

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00～13:00	●	●	●	●	●	×	×
15:00～18:00	●	☆	●	☆	●	×	×

☆ = 17:00～18:00
【休診】日曜・祝日